「ことばの教育」パイロット校事業　報告書

学校名	福山市立神辺東中学校
校長名	橋高　延也
所在地	福山市神辺町大字下竹田９５９番地の１
ＨＰ	http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/chu-kanhigashi
学級数	１０学級
タイプ	Ⅰ　・　Ⅱ

１　研究の概要

（１）研究主題

一人一人の生徒が生き生きと活動し，
自己実現を図る教育活動の推進
～言語技術を取り入れた教育活動の創造～

（２）研究のねらい

「言語技術」を習得させる取組みにより，生徒が生涯にわたって自立し主体的に生きていくための，自ら学ぼうとする意欲，論理的思考力，判断力，表現力，人間関係形成力等の「生きる力」の基礎基本を育む。

（３）研究組織・体制

○「ことばの教育」パイロット校事業

「ことばの教育」パイロット校研究開発会議

「ことばの教育」推進委員会
【校長・教頭・パイロット教員（研究主任）・教務主任・学年主任】

【指導・助言】
広島県教育委員会
広島県福山教育事務所
福山市教育委員会

教務部・教育研究部・学年部・総務部・生徒指導部

２　２年間の取組みの概要

（１）「ことばの時間」の特設

○問答ゲームを基本に，事実の伝達（描写・説明の技術）・場面に応じた伝達（情報伝達の技術）・情報の理解（要約・報告・認知・分析の技術）についての指導を行う。

（２）「言語技術」を取り入れた授業の創造

○各教科で「言語技術」指導を通して身に付けた技能を使い，根拠を明確にして考えを述べさせる。

○「言語技術」を活用した（ワークシート）授業を行うなど，論理的な思考の育成に努める。

（３）「言語技術」を取り入れた特別活動

○学級活動での1分間スピーチを充実させる。

○生徒会の全校集会等でのあいさつにおいて「言語技術」を活用させる。

（４）学校生活全般での取組みの充実

○職員室などで用事を述べる生徒の話し方において問答を行わせる。

○「ことば」のプロの講演による「ことば」へのトップイメージを持たせる。

（５）保護者・地域への啓発活動

○「学校だより」「パイロット校だより（ことば通信）」などで保護者・地域に「ことばの教育」の取組みについて情報発信を行い，啓発をする。

○行事等での生徒発表において，「ことばの教育」を通して学んだ技術の成果を披露する。

（６）演習を中心とした校内研修

○全教職員が同じイメージを持ち，組織的に取り組むために，講義型の校内研修から演習型の校内研修にする。

○教材研究をするときも，各グループで論議するなど，自分たちが授業のねらいをつかみ，実践に生かすよう取り組む。

○教職員が生徒役になり，シミュレーション授業を実施する。生徒役の曖昧な答え方に対して，どんな切り返しの発問をすることが，生徒の思考力を育成することにつながるのか考え，実践に取り入れる。

○教師個々の授業をビデオに撮り，評価・分析を行う。生徒の答え方に対しての反応の仕方など，より生徒の思考を深めるためにはどうすればいいか，改善点などについてお互いに検討する。

３　研究の成果と課題

（１）成果

①全国学力ＣＲＴテスト（国語）で全国平均を上回る。

	話す聞く	書く	読む	知識	４観点
本校２年生	75.2	65.9	65.1	65.8	68.2
全国平均	71.4	62.8	69.3	65.1	67.3

１年生時（昨年度）の４月に実施したＣＲＴテストでは，全ての項目で全国平均を下回っていた。１年間「言語技術」指導に取り組んだ後の本年度４月に２年生を対象に実施した全国学力ＣＲＴテストでは，「読む」観点においては全国平均を下回ったが，「話す・聞く」「書く」「知識」「４観点」においては，全国平均を上回った。

②広島県基礎・基本実態状況調査（国語）において通過率が14.6%ＵＰする。

	聞く	書く	読む	言語事項	全体
平成17年度	45.1	73.5	58.8	71.2	65.9
平成18年度	85.2	83.0	71.6	86.9	80.5

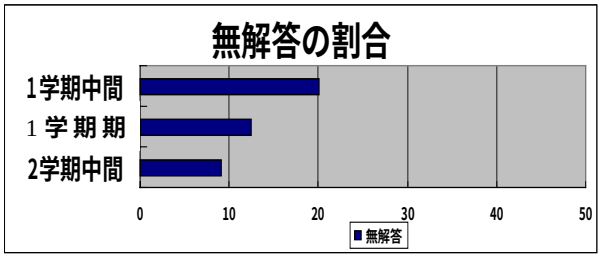
昨年度の広島県基礎・基本実態状況調査（国語）においては，すべての項目において県平均を下回った。今年度の６月に行われた同様の調査においては，平成17年度の自校の数値をすべてにおいて上回り，全体通過率においても14.6%上昇した。観点ごとにみると「聞く」「言語事項」においては，県平均を上回った。「書く」「読む」「全体」においては県平均を下回った。しかし，少しずつではあるが，県平均との差が縮まってきている。

③広島県基礎・基本実態状況調査（国語）において通過率が30%未満の生徒が0%になる。

	30%未満	60%以上	80%以上
本　校	0	95.1	56.8
県平均	0.6	92.7	66.5

本年度の広島県基礎・基本実態状況調査（国語）において通過率30%未満の生徒が0%になった。また，通過率60%以上の生徒の割合も95.1%と高い割合になった。これも全教職員があらゆる教育活動の中で取組みを進めてきた成果であると考える。しかし，一方で80%以上の生徒の割合は，県平均を10%近く下回る結果となった。これは，「言語技術」で身につけた技能が各教科で十分活用されていない結果だと考えられる。これからは，「言語技術」を生かす指導方法の工夫改善や教材の開発やワークシート等の教材を作成するなど，「確かな学力」を定着させる取組みをしていく必要があるととらえている。

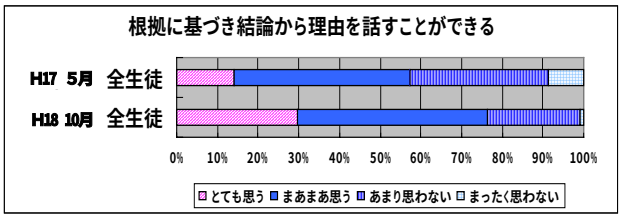
④表現力・思考力を問う定期テストで無解答の割合が20.1%→12.5%→9.1%となる。



全教科で表現力・思考力を問う定期テストを行い，1学期中間テスト・1学期期末テスト・２学期中間テストを比較した。それぞれの教科で生徒の解答を①正答②誤答③無解答に分類してみると，無解答の割合が11%減少した。

しかし，一方では無解答ではないが，誤答に分類されるものや，０点の生徒も1割弱いた。このことから，生徒には自分の考えを述べる力や思考する力はつきつつあるが，確かな学力に十分に結びつけさせることができていないと判断している。今後，継続的な「言語技術」の指導を通して表現する意欲を高め，「確かな学力」の定着に結びつく授業を創造していかなければならないととらえている。

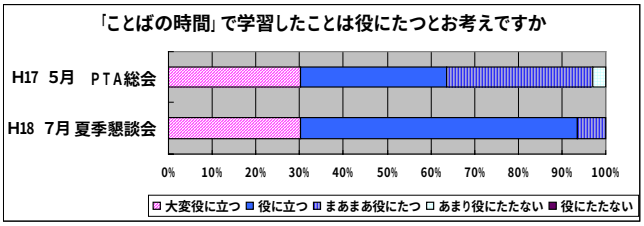
⑤根拠に基づき結論から理由の順で話すことができる生徒が76.4%になる。



グラフのように，「ことばの時間」を取り入れる前（平成17年５月）平成18年10月に実施したアンケート調査の「根拠に基づき結論から理由の順で話すことができる」の項目で18.9%の上昇がみられた。

これらのことから，『型』を意識することにより生徒は，少しずつ自分の考えの根拠を意識しながら話していくことが増えているととらえている。

⑥保護者の「ことばの時間」への肯定的な理解がＵＰする。



【「ことばの時間」のあり方の説明後の保護者感想】

①子どもから時々質問されるので，昨年の懇談会を思いだして，子どもが単語で話すと繰り返し聞き返すようにしています。

②「ことばの時間」は必要だと思います。「ことばの教育」をすることで，人間性豊かな表現力が身につくことができると思います。また豊かな言葉を使用し伝えることもできることは将来役に立つと思います。

③問い返すと「もうええっ」と言う事が多くぶつぶつと不満をつぶやくため，親子ケンカになっていた。最近，少しずつそういう場面が減少している。

（2）課題

「ことばの教育」指導体制について

①パイロット教員を中心に「ことばの教育」推進委員会を機能させ，「言語技術」の指導方法の校内研修・演習を計画的に実施し，教職員の指導力を高める。

②系統的な「言語技術」指導を行う。

全教育活動への生かし方について

①全教育活動において「ことばの時間」で習得した「言語技術」を活用し，効果的にねらいに迫る授業づくりをする。

②各教科においては，「ことばの教育」で学んだ技術を使用することのできる発問，生徒の答えに対しての切り返し，教材開発（ワークシートづくり等）をすすめる。

保護者・地域への啓発について

①保護者へ「ことばの教育」についての啓発を継続して行うことで，本校の取組みに対して，理解と協力を得て，生徒に「ことばの力」をつける取組みにつなげる。

②行事等で生徒発表を行い，保護者・地域に「ことばの教育」を通して学んだ技術の成果を披露していく。